

令和5年3月1日に思う

先月号に続いて吉野杉の“登場”です。川上産吉野杉が「免疫力をきたえる効果あり」という耳よりの話しが公表されました。三人での会話「鼎談（ていだん）」の席であります。

奈良医大にて1月30日、その鼎談がありました。メンバーは細井奈良医大学長、井村社長（株式会社イムラ）と私であります。いま社会では、官民や産官学などの連携事業がさかんで、地域創生や循環型社会の構築にあたり、積極的に展開されています。

今回の企画は、某出版社によるもので、奈良医大が積極的に推進しているMBT学（医学的知見をまちづくりに活用）をもって、木材（吉野杉）が人々の心身や暮らしにどのような効果があるのか否かを研究した成果を踏まえ、医大側と長年にわたり川上産吉野杉で住宅建築を数多く手掛けている株式会社イムラの井村社長と私による座談会が開かれました。

このことは、いずれ雑誌で詳しく掲載される予定ではありますが、今回フライング的に内容に触れました。驚きの結果が先に触れたように、わが村の吉野杉に「免疫力をきたえる」という特性がある、とする奈良医大の伊藤利洋教授ら免疫学を研究している先生たちの研究成果であります。吉野杉の効能が医学的見地から証明されたことはとても大きな意義があります。

循環型社会の構築は、林業そのものです。国土保全の使命も備え、木を植える、育てる、収穫する、利活用する、また植える。このサイクルが持続可能な地域をつくと確信します。林材業界を取り巻く環境は依然厳しいものの挑戦は続けます。